

その油、捨てずに使い続ける方法があるとしたら？

油性切削液の加工で、
作業が一番困るのは油の「掃除」です。

加工は、
ツールの確認、
プログラムの確認、
温度変化による補正、
加工条件の微調整。
生産を始めるまでに、すでに多くの気を遣っています。

その中で見えずに徐々に発生するのが、
タンク内に溜まったスラッジの掃除です。

しかもこの掃除は、
あらかじめ予定されている作業ではありません。

だから
液の汚れが原因でトラブルが出ると、
加工は止まり、掃除が始まります。

場合によっては、
油を抜き、廃棄せざるを得ないこともあります。

その瞬間から、
作業者は
「今日は、予定の生産数を達成できるのか」
を気にしはじめます。

汚れてから止めて掃除をするのではなく、
止めずに、液の状態を保つ方法があれば――

少なくとも、
油が原因で機械が停止するリスクや
油の廃棄リスクは減らせます。

その結果、
作業者の負担が軽減され、
生産計画の精度が上がります。

原油高という環境下でも、
コストと稼働を両立できる可能性が出てきます。

次ページの方式をご覧ください。あなたの工場に合いますか確認下さい。



***原油高時代でも
油を捨てずに使い続ける運用へ**

- * 汚れた油は、まとめてドラム缶に回収
 - * 回収した油をマイクロキャッチでろ過
 - * 自動で戻った再生油を工作機械へ戻すだけ
- 200リッターが一晩で自動再生油へ



油性も水溶性も
ご検討下さい ☹️



***この仕組みが、
貴社の運用に当てはまるかどうか
まずは30分ほど、
実例を踏まえてオンラインで情報交換しませんか？**

▶お問い合わせはここからも可能です
https://www.konitech.kyoto.jp/?page_id=7



コニテック株式会社
 担当: 松田 裕
 住所 〒600-8899
 京都市下京区西七条赤社町10番地
 電話: 075-311-7799 FAX: 075-311-7798
 携帯: 090-5069-7039
 ホーム: <https://www.konitech.kyoto.jp>

